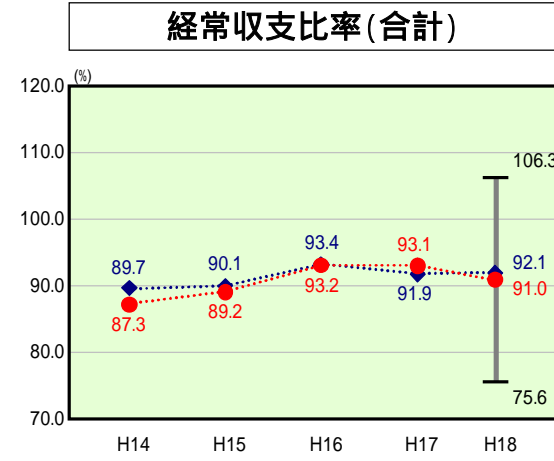


歳出比較分析表(平成18年度普通会計決算)

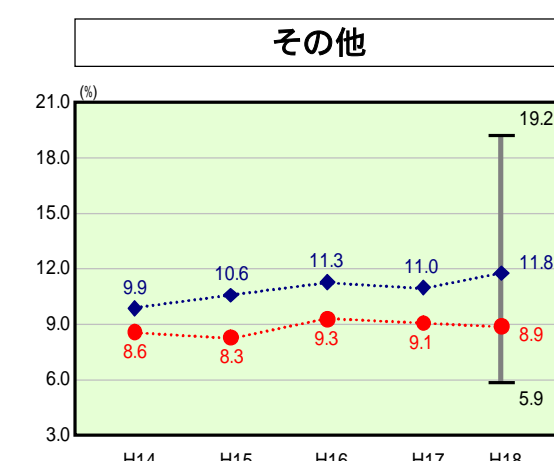
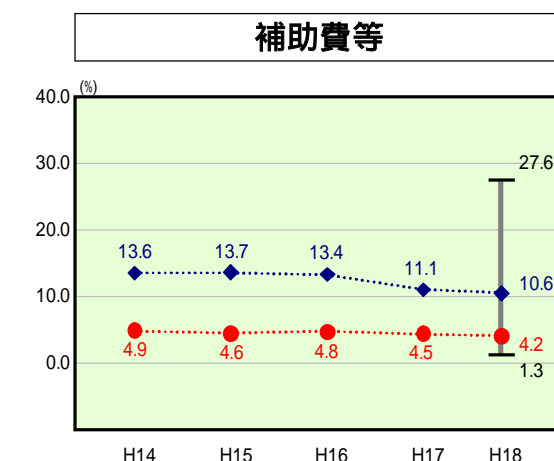
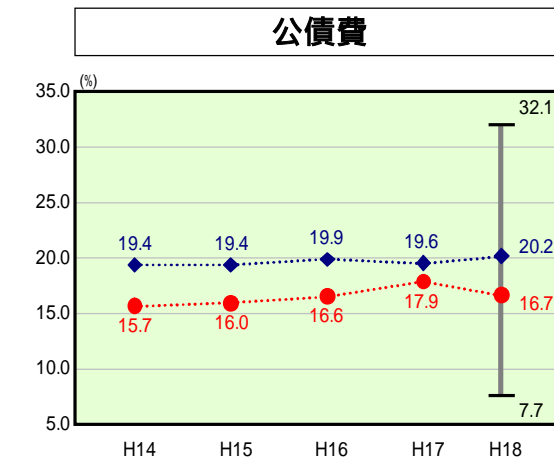
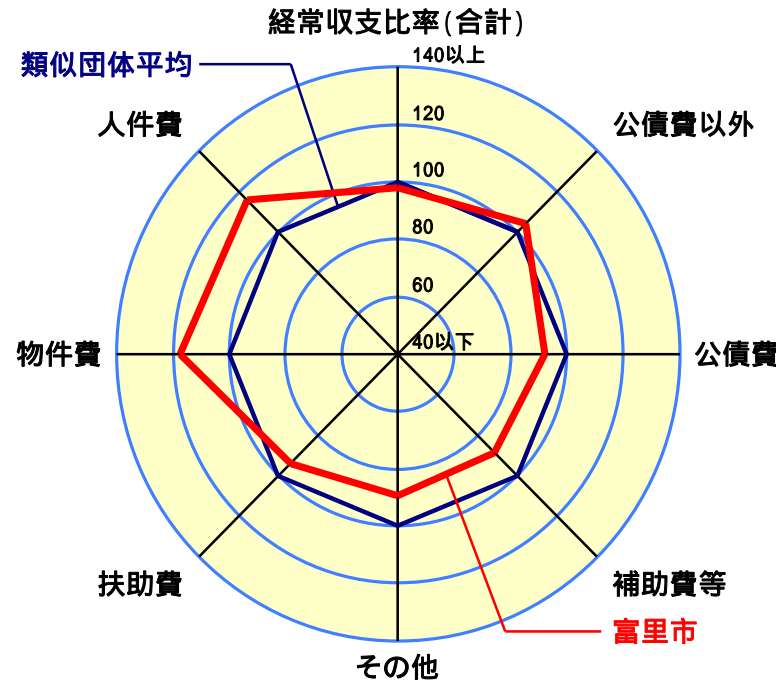
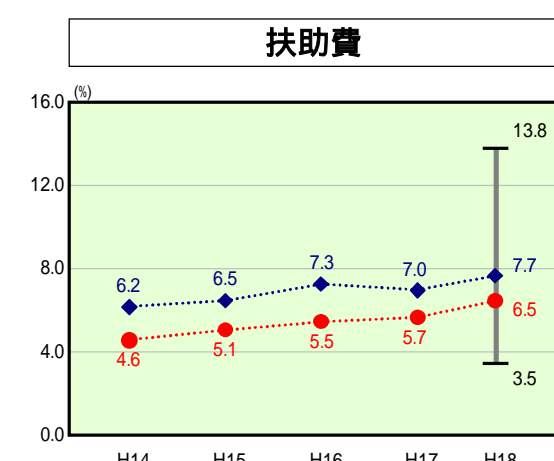
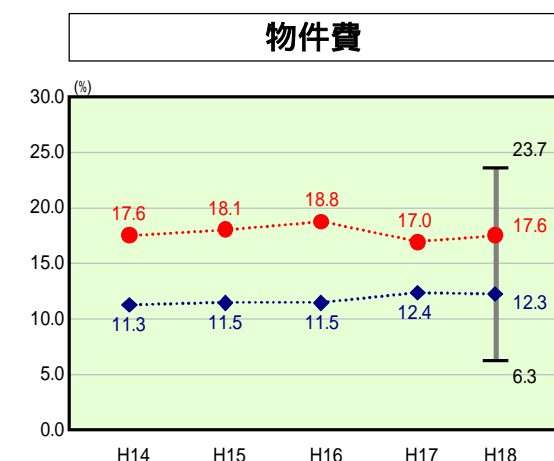
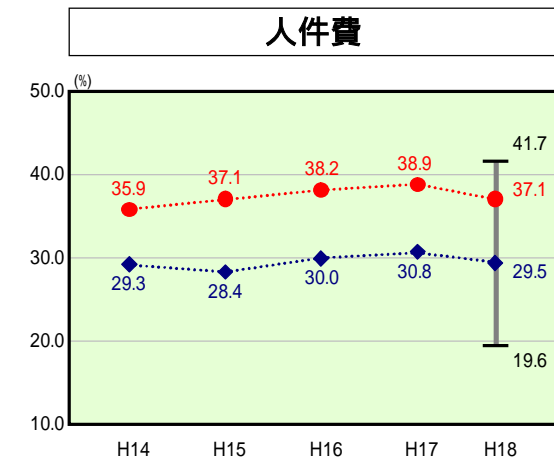
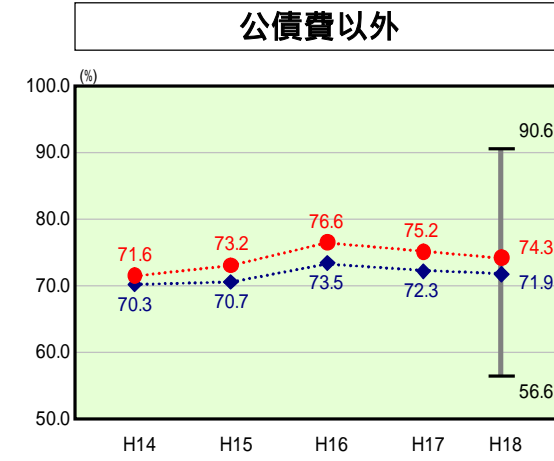
千葉県 富里市

経常収支比率の分析



当該団体値 ●
 類似団体内平均値 ◆
 類似団体内最大値 ▮
 類似団体内最小値 ⊥

人口	49,876人(H19.3.31現在)
面積	53.91 km ²
歳入総額	12,939,355千円
歳出総額	12,277,258千円
実質収支	662,097千円



- 1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費: 人件費に係る経常収支比率は、平成18年度において37.1%と前年度と比較すると改善しているものの、類似団体平均と比べて高い水準にある。一方、人件費及び人件費に準ずる費用の人口1人当たり決算額は類似団体平均を下回っており、職員数は類似団体平均を上回っている。これは、昭和50年代後半の人口急増期の行政需要の急激な増から対応するため職員を大量に採用したこと及び消防業務を単独で行っていること、職員の経験年数階層が異なることなどの要因もあるが、定員適正化計画に基づく職員数の削減、特殊勤務手当の全廃、地域手当の見直し等の取組により効果が現れてきており、今後も引き続き削減に努めていく。

物件費: 平成18年度は給食調理業務の委託化や指定管理者制度の導入等の影響もあり、物件費に係る経常収支比率は類似団体平均と比べて高水準となっている。「集中改革プラン」で掲げる業務の効率化、低コスト化を推進し、公共施設における給水費の節減、委託業務内容の縮減を持続し、物件費の削減に努める。

扶助費: 他団体と比較して高齢化率が比較的低いこともあり、扶助費に係る経常収支比率は類似団体平均を下回っているが、年々上昇傾向にある。今後も少子高齢化対策をはじめとする扶助費の増加が見込まれることから、他団体との比較による給付水準や市単独事業の見直し等の検討により、適正水準に止めるよう努める。

補助費: 補助金の削減や指定管理者制度の導入に伴う委託化等、行政改革行動計画を推進し、経常収支比率の補助費は類似団体平均を下回っている。一部事務組合への負担金や市水道事業等への出資金等についても増加傾向にあることから、事業評価を反映させた事業の整理・統合や、補助金のゼロベースからの見直し結果の反映等により一層の経費節減に努める。

公債費: 臨時財政対策債の発行による償還費や公債費に準ずる一部事務組合に対する負担金等の増要因もあるが、大規模な建設事業に対する地方債の償還が終了したことや地方債発行の抑制の効果により公債費は減少傾向にあり、類似団体平均を下回っている。今後も大規模な事業の事業計画等を明確にし、公債費負担の平準化に配慮した地方債発行に対応していく。

普通建設事業費: 普通建設事業費の人口1人当たり決算額は類似団体決算額を下回っている。これは市立図書館の建設等大規模事業が終了したことはあるものの、一般財源等の減少に伴う市の厳しい財政状況が影響している。今後、教育施設等の